

ICT ニュース 2024/9 月号

2024/9/17 発行 ICT/感染管理委員会

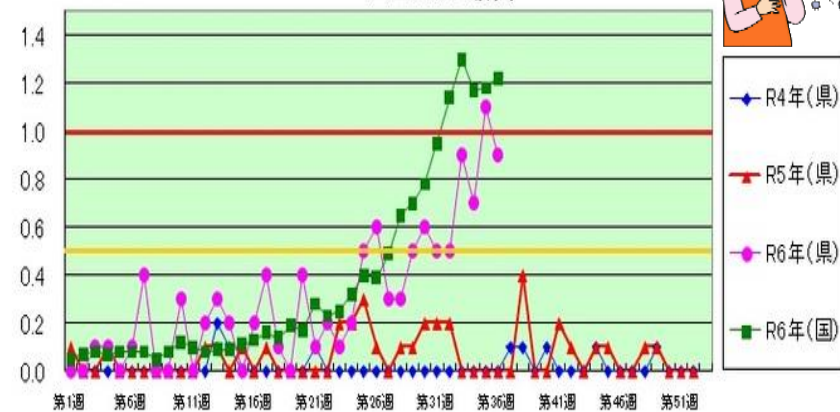
9月になりましたがこの猛暑と同様に、コロナウイルス感染症は注意報レベルを継続しています。さらに、マイコプラズマ肺炎が8年ぶりに大流行しています。マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマによる細菌感染症です。感染経路は、主に飛沫感染と接触感染で、発熱や長引く咳といった症状が特徴であり子どもが感染することの多い疾患です。いったいどんな病気なのでしょうか？



● 感染症情報センターより

(定点当たり患者数)

マイコプラズマ肺炎



県は、8月26日～9月1日のデータから定点医療機関1カ所当たりの患者数が1.10人となり、流行入りの目安に定める「1」を上回ったことを踏まえて流行入りを発表しました。

年齢別では5～9歳が34人と最も多く、14歳以下が7割を占めており、患者は全国的にも増加しています。

● 症状

潜伏期間は通常2～3週間で、初発症状は発熱、全身倦怠、頭痛などである。咳は初発症状出現後3～5日から始まることが多く、当初は乾性の咳であるが、経過に従い咳は徐々に強くなり、解熱後も長く続く(3～4週間)。特に年長児や青年では、後期には湿性の咳となることが多い。

マイコプラズマ肺炎の特徴

かぜに似た初期症状

・微熱程度の発熱 ・倦怠感 ・頭痛
・のどの痛み ・鼻水、鼻づまり(幼児)
※全ての症状が出るとは限らない

3～5日後に

乾いた咳が出て、長引く



咳が辛い時のホームケア

たんは吐き出す

うつぶせで寝る



● 診断

確定診断には、患者の咽頭拭い液、喀痰よりマイコプラズマを分離することであるが、適切な培地と経験があれば難しいことではないが早くても1週間程度かかるため、通常の診断としては有用ではない。近年迅速診断としてPCR法が開発されており臨床的に有用性が高いが、実施可能な施設は限られています。最近では抗原定性検査もできるようになってきました。

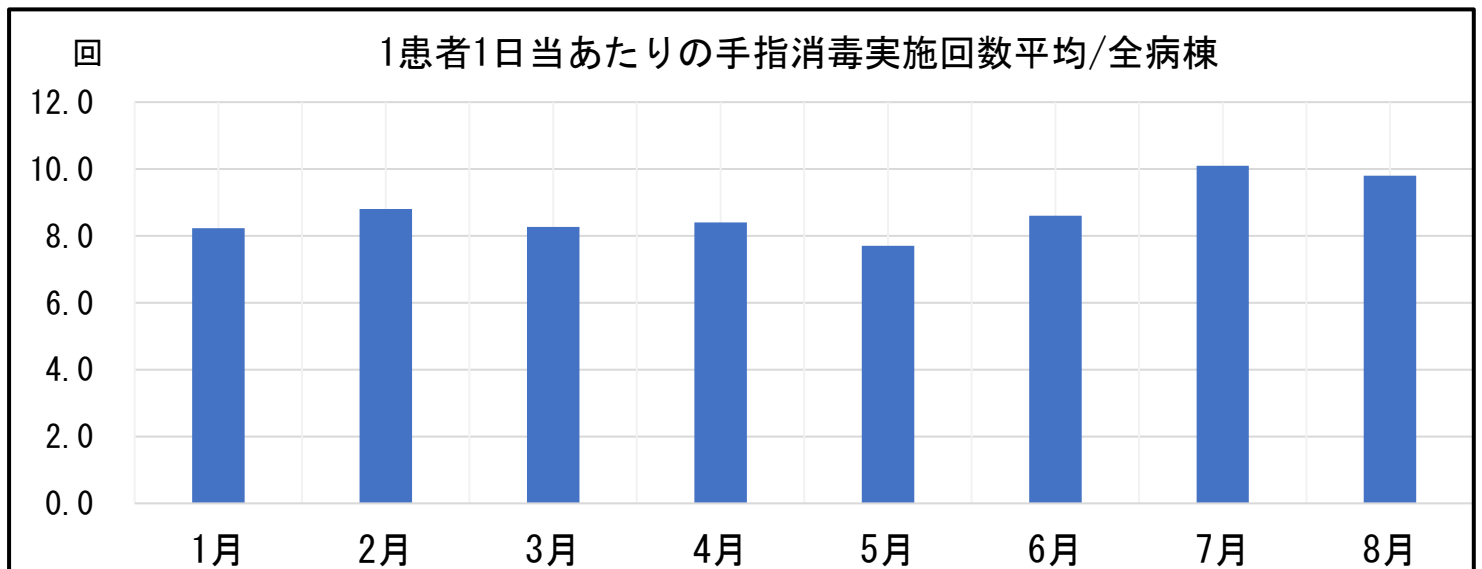
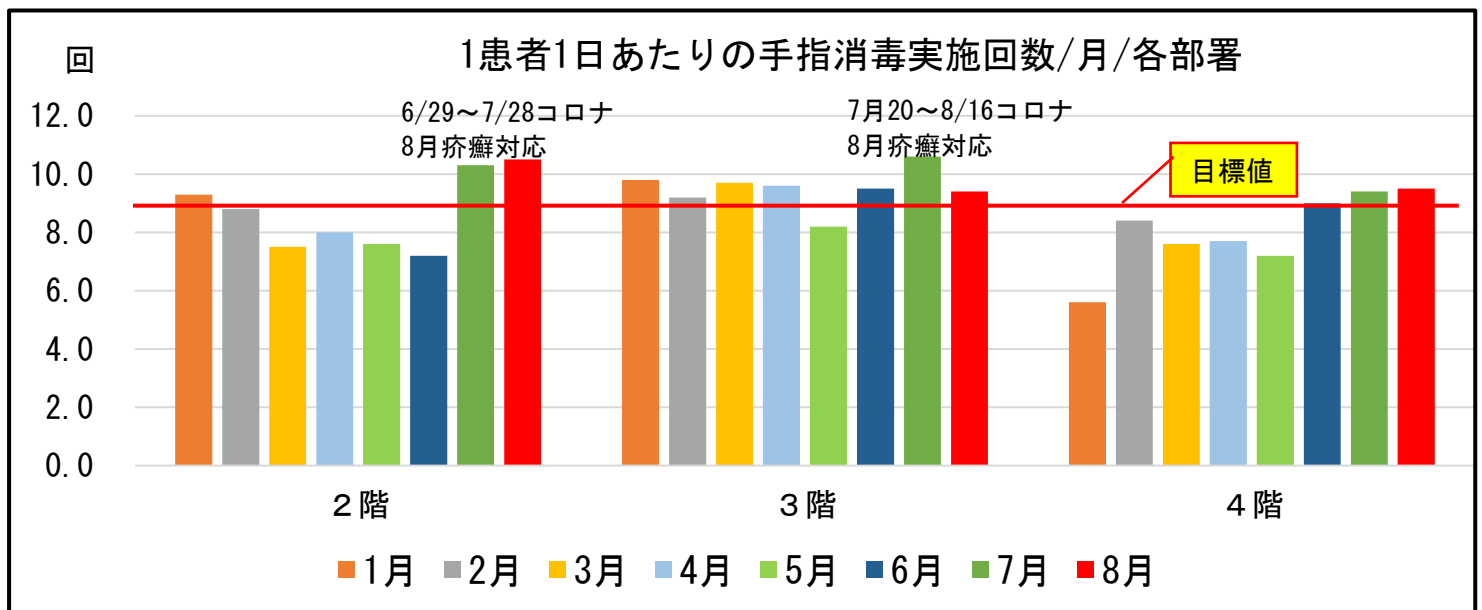
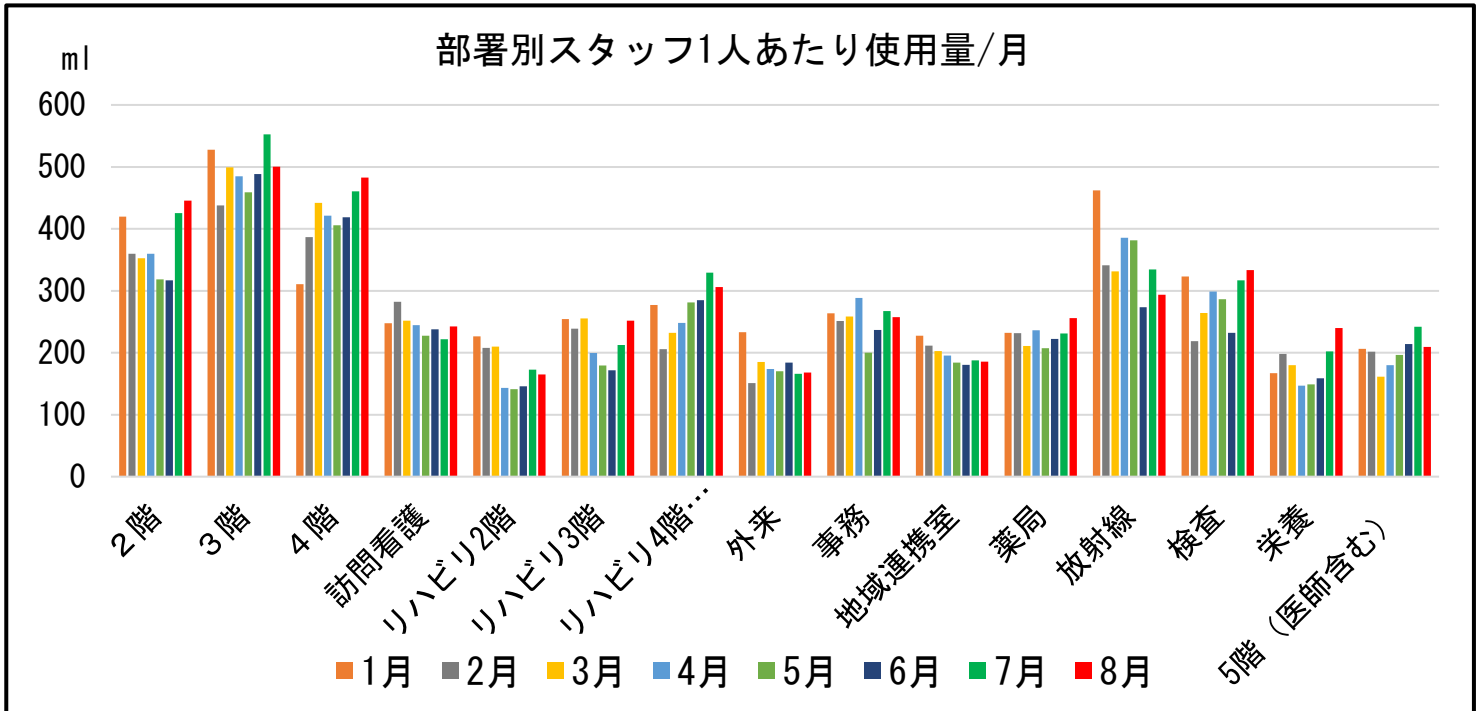
● 治療

マクロライド系やテトラサイクリン系、ニューキノロン系薬剤が用いられる。一般的には、マクロライド系のエリスロマイシン、クラリスロマイシンなどを第一選択とするが、学童期以降ではテトラサイクリン系のミノサイクリンも使用される。

● 予防対策

流行期には手洗い、うがいなどの一般的な予防方法の励行と、患者との濃厚な接触を避けることです。

★2024 年アルコール手指消毒剤使用量報告



★2階・3階病棟は、コロナ感染症や疥癬などの流行により使用量が増加した月もあれば、その割には減少した部署がありました。自身の手指衛生実施状況はいかがでしたか？